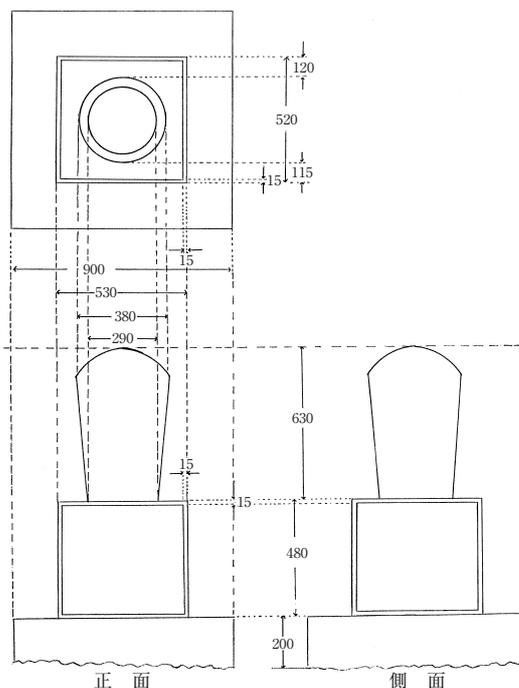


133 だいばいぜんじ ぼひ 大梅禪師墓碑



指 定 市 史 跡 昭和45年10月1日
 所 在 地 内 山
 所 有 者 正 安 寺



武家の間に深い影響を及ぼした禅宗は、近世に入ってから他の宗派と同様、著しく政治的・礼儀的になり、形骸化してしまったが、承応年間における隠元和尚の渡日（1654）に刺戟され再び本来の面目を発揮するに至った。

その先覚者に、臨濟宗では駿河の白隠和尚があり、曹洞宗には信濃の正安寺の大梅禪師があった。

大梅禪師、諱は法璞、字は圭立、自ら大梅山人と号した。天和2年（1682）深志源氏小笠原の裔（子孫）、小日向佐五衛門直恭の子として、水内郡竹生村（小川村）に生まれた。

元禄3年（1690）9歳のとき正安寺で剃髪、各地を行脚して修業し、享保4年（1719）に正安寺16世住職となり、やがて大本山総持寺貫主にもなった。特に東信地方に大きな足跡を残し、多くの法孫を育てた。能書家としても知られる。

墓碑は正安寺墓地内にあり、古いものは落石のために折れ、再造されている。

なお同墓地内には、内山美作守墓碑、小山田備中守墓碑などの古碑がある。

参考資料 「大梅法・禪師」 塚田孝心